

東京日々新聞

八百九四号



去る頃野別朽木
 縣下にて捕縛
 強盗有ん名と金之助と
 呼んで本年僅十八歳産も同所
 ちよは平素容止温和にて親
 信實ありあつたといふ
 容れ女子ありて見あはせ
 最少年ふあつた心駒の
 狂ひ人夜毎
 小寄る自浪
 の所為と秀
 大膽太
 雷豪押入て
 財を得るも許交りりん或夜
 何方の旅泊ある驛路を縁の垂枝と敷及泊せよ其
 家へ忍び入る年増の藝妓と執強夜あさんと挑つ婦人の
 ひく驚き一以程よく言身小障の事のはさむと評調さ
 俊許ふ恐怖で居居ふと新造の殿女の手を執り御身が
 切り小此女子と公是非共今宵拜受と一言べ以前の
 藝妓は賊のまごころを君いりる青年ありといふあつた
 妻今迄耻けさ事といへせと又外心移は難頼らばと氣轉の格
 氣空言と知れどもんを理の當然其夜は空手く立去りさ不日捕さ
 入牢の中其掛へ申立回率規則と一凌て厚き仁徳の 聖代と見極

蕙齋芳幾

墨陀西岸
 温克龍吟迹

影工舛吉

東京日々新聞824号 文庫10-8059-23

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

